

サチカツラノチモテハムトユメニミワケヒソワタルトシハヘニツ、  
核葛後相夢耳受日度年經乍

〔大和物語上〕本院藤原の北方の、まだ帥の大納言藤原のめにていますかりけるをりに、平中  
がよみて聞えける、

春ののに縁にはへるさねかづら我きみざねとたのむいかにぞ、といへりける、かくいひく  
てあひちぎることありけり、略

〔後撰和歌集戀十〕女のもとにつかはしける

三條右大臣

なにしおは、あふさか山のさねかづら人にしられでくるよしもがな

〔北條五代記五〕關東昔侍形義異様なる事

諸侍の形義異様に候ひし、上下のひだのためやう、衣紋かりきやうに至迄も、小田原やうとて、皆  
人まなべり、略髪をばびなんせきにて、びんを高くつけあげ給へり、

〔採藥使記中〕相州重康曰、相州底倉ノ湯場ノ山中ヨリ五味子ヲ出スナリ、方言五九ノ伊ト云フ、即獻  
上ス、